



## 関わりの中で育まれる気持ち

副保育長 柿本 美香

月日を重ね、異年齢の交流は益々増えて楽しく続いています。

ひよこ組とうさぎ組は隣同士の部屋を行き来することから一緒に遊ぶ機会が増え、今ではホールで遊具を設定して体を動かすことや、ままごとでのごっこ遊びを自然な関わりの中で楽しんでいます。

製作が大好きなばんだ組は自分たちだけではなく「他のクラスにも教えてあげたい」という気持ちから、うさぎ組を招待して、絵本「ちっちゃなおさかなちゃん」の“ぐるりんこ”の作り方を教えていました。同じものを年長さんと作ったときには、“何色の毛糸を選ぶのかな？”とよく見て手渡していたそうです。子どもたち同士で年下の子・年上の子との関わり方を考えている様子が見られたとのことでした。その後“お昼寝でトントンしてもらいたい”と年長さんが憧れの存在になったそうです。

そしてもも組、きく組、そら組、もり組はお店屋さんやアイドルごっこ、水族館やお祭り、遊園地にコンサートなど、たくさんのイベントに招待してくれました。売り子になったり楽器の鳴らし方を教えてくれたりするだけではなく、“よく見えるようにお神輿を低くしてあげよう”“怖くないよう乗り物はゆっくり動かしてあげよう”“手をつないでやさしく案内してあげよう”など小さい子への思いやりの気持ちが自然と表れる姿に心が温かくなりました。

好きなことを表現し、伝え、楽しさを味わいながら、いろいろな気持ちが育まれ異年齢との関わりが深まっていくのでした。

節分の豆まきでもまた楽しい交流が見られることと思います。

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」という言葉があります。

- ・新年を迎えてやる事がたくさんあり、待つてほしいのに行ってしまう1月。
- ・ひと月の日にちが少なく、あっという間に逃げてしまう2月。
- ・いろいろなことをして、気が付いたら日が去ってしまう3月。

毎日が忙しく、慌ただしく過ぎていきますが、子どもたちの成長のひとつひとつを大切にしていきたいですね。